

要望書

肝炎対策推進協議会 御中

2023年9月30日

肝炎対策推進協議会委員

後 藤 千代美
山 崎 喜彦
米 澤 敦子
鹿 野 さゆり
辰 巳 創史
出 田 妙子
及 川 綾子

要望の趣旨

以下の2点につき、担当部局において、肝炎対策推進協議会の場で説明していただきたい。

- 1 肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業につき、制度の在り方の検討状況
- 2 「肝炎患者等の人権を尊重するためにはどのようにふるまうべきかを考え、学ぶ」ことの重要性をふまえ、どのようにして「肝炎患者等の人権尊重について取組を推進する」のか、その方策の検討状況

要望の理由

- 1 肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業について

肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業に関わる医療費助成については、制度発足以来の助成要件の見直しにより、助成対象者数・助成実績数が拡大してきている。

しかし直近のデータに基づいても、制度発足時に予想された助成数をはるかに下回る実績にとどまっている。その原因については、直接的な制度運用主体である各自治体や医療現場で患者を制度利用に導く機能を果たすべき医療機関による取組みのあり方が影響しているとの指摘があるほか、私たち患者団体としては制度上の助成要件自体のさらなる見直しが必要であると考えているところである。この点、国としても同制度のあり方に関してはNDBや拠点病院アンケートに基づく実態調査を進めており、2024年度予算編成との関連

で2023年末までには一定の結論を得るべく検討中であるとのことであるが、私たち患者団体としても制度見直しに関しては厚労省との意見交換の場を持つことを強く希望している。そこで、患者団体としての意見を形成するうえで必要な情報を得るため、肝炎対策推進協議会の場ですら上記調査・検討状況につき報告・説明していただきたい。

※ 2023年8月30日大臣協議（B型肝炎）における大臣回答

「令和3年度の事業内容の見直しによって令和3年度の助成件数は令和2年度の約3倍に増加したところではありますが、細かく見ますと、自治体ごとに実績にばらつきもあります。また、医療機関によっても取組状況に差が見られるという課題も指摘をされておりますので、本事業の周知・啓発を行うとともに、好事例、うまくやっていた事例。こういったものをしっかり周知を図り、そうした事例が更に広がっていくように、自治体・医療機関の取組を支援していきたいと考えております。

その上で、助成対象となる要件の更なる緩和ということの御要望をいただきました。そのためにも、まず、現在、事業の実態把握を進めているところをごさいますして、いわゆるナショナルデータベースを用いた調査、あるいは肝疾患診療連携拠点病院の外来実態調査及びアンケート等を、今、実施をしているところをごさいますので、この内容なども踏まえて、事業の在り方について、冒頭申し上げました、この事業の目的というか、位置づけも踏まえながら、本年末を目途に結論を得るべく、更に検討を進めていきたいと考えているところをごさいます。」「というのは、要するにこれは予算と絡んできますから、今年中に結論を出して、令和6年度の予算の中に盛り込んでいくということになりますので、それを、そうしたスケジュールを念頭に、今、実態を把握をし、そして、具体的にどういう形でやるかについて検討を進めていきたいと考えているところでもあります。」

2 肝炎患者等の人権の尊重に関する取り組みについて

肝炎対策の推進に関する基本的な指針においては、「肝炎患者等に対する偏見や差別を解消するためには、肝炎についての正しい知識の普及を前提に、感染症患者に対する偏見や差別の歴史も踏まえ、肝炎患者等の人権を尊重するためにはどのようにふるまうべきかを考え、学ぶことが重要である」、「肝炎患者等の人権尊重について取組を推進することは、感染症患者全体の偏見や差別の解消に資するものであり、国は、このような観点から、地方公共団体、学校教育関係者及び患者団体等の様々な関係者と連携し、その方策の検討を進める必要がある」という基本的な方向が示されている（同指針第1（5））。

同指針改正からすでに1年7か月が経過したところであり、早急な取り組みが必要である。

そこで、肝炎患者等の人権の尊重に関し、国としてどのように取り組んでいくのか、その全体像と具体策・スケジュールを肝炎対策推進協議会において説明していただきたい。

※ 2023年7月26日大臣協議（薬害肝炎）における大臣回答

「感染症教育としてどのような内容が望ましいのか、また、対象者をどのように考えるのか、こういった具体的な課題についてしっかりと検討していく必要があると考えております」「人権教育としての在り方ということになりますと、所管が文科省にもなりますので、よく連携していきたいと考えております」「できる限り、皆さんの意見を聴きながら、早く取組をさせていただきたいと考えております」

以 上